

れが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものゝ立て方にあり。内容の選擇排列も亦、一々意を用ゐたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組第一保育期

——満四歳から満五歳——

生活訓練

第一週

生活訓練は、幼児の生活によき習慣をつけることである。その生活は、家庭内のもとは素より、社會生活にまで及びたい。しかし、幼稚園で實際に習慣づけ得るものは、幼稚園内の生活である。生活訓練が先づ、斯うした目の前の身邊のこゝから始めらるべきは當然である。但し、その訓練

効果は決して幼稚園内に止まるものではない。たゞせば、幼稚園で食事前に手を洗ふ習慣が眞についた時、家庭でもそうしないではゐないであらう。又、幼稚園で庭の植物を大切にすることが眞に習慣づけられた時、公園でも同じことである筈である。習慣は、その子につくもので、或る場所や或る時に限られるべきものでない。若しそうだった

ら、眞の習慣がつけられ、ほんまうに訓練せられたまはない。しかし、それは結果である。先づその着手は、ここまでも、幼稚園生活そのものからである。

年少組第一保育期第一週といへば、こりもなほさず、幼稚園へ来たての幼児達である。家庭から此の幼稚園といふ世界へ、もの珍らしさ、もの悲しさ、ここによつたら、相當の恐怖心をも混じて、つい今、はいつて来たばかりである。それへ生活訓練！これはよつぽさ考へさせられることまで御座る。そこで、解説には議論は一切差し控へることも、往々にして主張されるやうに、集團生活の訓練へ（それは幼稚園として必要のことであるのは素よりであるが）の急速なひつぱり方や、おしつけなきは、少くも、相當の無理のこまゝしななければならない。生活訓練の點の意味は、ここまでも、揃ひの型へ幼児の行動をはめ込めやうとすることではない。幼児ひこりくの生活に與ふる調整と指導とに他ならないのである。

こゝに擧げてある内容にも、幼児に何か特別の訓練を授けるまいつた風のもの一つもない。幼児が、さうせする

こゝに、いゝ習慣づけを導くだけのことである。そうして、これだけのことを、此の第一週の間、習慣つけて仕舞はうといふのではない。習慣は長くかゝる。此の後、引きつづき不斷の注意を拂つてゆかなければならない。たゞ、望ましい習慣の中にも、いつから始めたがよいかといふ問題はある。ゆつくり、數週數月の後に始めたがいゝのもあらう。その中で、幼稚園生活の最初から、方向づけてかゝつた方がいゝと思ふものを、それも出来るだけ少なく第一週へ置いたのである。この中で、「室の出入りに靴を取替へる」こゝ一項は、室内靴と庭靴とを區別してゐる幼稚園に限つて必要のことで、また、その仕方も設備によつていろいろ異なるであらうが、いづれの幼稚園にしても、穿きもの、始末について訓練の必要なこゝは同じであらう。家庭でさへ、亂雑な脱ぎはなしは許されない譯である。「仕事の用具を自分で出し入れするこゝは、所謂銘々戸棚があり、幼児各自の道具入れ箱を用ゐるさせてゐる場合のこゝであるが、この設備は是非の幼稚園でも用はれたいと思ふ。これは、斯うした設備から出る訓練の必要といふよりも、斯うした

訓練(自分のものを自分で始末する)のために必要な設備だ
さいひたいのである。しかし、若し、斯うした設備がなく、
舊來の共同使用を行つてゐる幼稚園では、その訓練もおの
づから、共同使用の訓練になる譯であるが、さあ、それが
第一週から始められることだらうか。序ながら問題として
だけ提出して置く。

此の項の中にある「遊戯、お歸りの前に用便する」こいふ
のは、一寸、他の訓練事項と趣きが違つてゐる。外部的な
行動の訓練でないし、習慣づけるこいつても無理だを考へ
る人もあるかも知れない。しかし、斯ういふ生理的習慣は
極く大切なことで、又、實行上、比較的容易に習慣づけ得
るものである、こゝによつたら、衝動や、外部興味によつ
て動かされ、促がされるこゝの多い行動よりも、純内部の
生理活動の方が、習慣のつき易い規則性を具へてゐるであ
らう。食事や睡眠の時間的習慣だつて即ちそれである。排
泄の方も時間的に習慣づけられる。アメリカの幼稚園な
ぎ、「トイレット タイム」(お小用時間)が定めてあつたり
するのを見ても、その實行の能性が明かである。わが國で

は、さうも此點が少々ふしだらの様でもあり、先生の方の
こまかい注意も缺けてゐるたりする。おそ、うは新入園児に
つきものこされてゐるが、それを正しい習慣へつれて行つ
てやるこゝが先生の注意で出来るこゝで、おそ、うの大部
分は、先生のおそ、うに基くこいつても、過言ののみはい
はれまい。自由遊戯に己れを忘れ、況んや捨て水なんか忘
れてゐる子を、そのまゝ非常呼集で遊戯室へ入れてぢつこ
整理さして置く。スキップのはづみに清水が溢れこぼれ流
れる。一體、先生はついてゐるのかさいひたい位だ。こ言つ
たら、保姆はおし、つこの番人ではないよこ仰せられるかも
知れない。勿論、そんなおし、もの事までお心を煩はさせ申
しては、教育者たる先生に對しまして申譯ない次第でも御
座りますが、可愛そうなのは、その子。ぬれぎぬならぬぬれ
ぎぬで泣いてゐる。さつき、一寸注意して下さつたらこ、
その可愛らしい目で先生を見てゐる譯ではないが。……兎
に角、實行は何んでもない容易いこゝ、遊戯、お歸りの前
なぎに、たまつてるものゝ始末さへつける機會を、先生の保
育案の中へ入れて置けば、それでいゝのである。假りに、

先生のせい、うから、或る幼児に、おせい、うの良習慣なんかつけてはならない。

第二週

「廊下を走らぬこと」。「窓に登らぬこと」。これは幼児の潑刺たる運動慾に對し、「らく書きせぬこと」は、横溢する幼児の表現慾に對し、さつちも少々氣の毒な抑、訓練である。しかし、それだけに、早くから、幼稚園生活に必然必具の行儀を、習慣づけてやる必要がある。元氣みやんちや、活潑な粗暴さはおのづから別であり、廊下の作法、窓の行儀が一方にあつてこそ、一ぱいに馳けていゝ庭、いくらでも登つていゝわくのぼりの設備が活きて來るし、らく書嚴禁の一方に室内の大ボールド、室外の立てボールド等の存在價值があらはれて來る。一體、わが國では廊下、いふものに對する作法がまだ行き渡つてゐない。室内か室外か、椽側さも違ふし、往來さも違ふ。その廊下の作法は特に注意する必要があらう。

第三週

此の週からお辨當が始まる。此の時期は幼稚園によつて一定してはゐないであらうが、兎に角、お辨當は幼児の大喜びであり、大愉快であり、出來ることなら早く始めてよからう。殊に通園區域の廣い大都市では、お歸りの關係上、さうしてもさうなるのである。

さて、食事であるが、これには多くの訓練が最必要であり、又その最もよい機會である。一體、われ／＼は訓練のための訓練を、その道德的意味に於てのみ考へてゐない。さうまでも實際生活の意義で考へる。その意味で、ただ作法の稽古をするといふ風のことは、生活が形式化し、生活の眞味がぬけて、甚だ面白くない。そこへ食事である。これは、假りに、どんなに形式化しても、抽象形式に墮しないだけの生活實質味が、食欲さといふ強い本能さ、味覺さといふ生々しい感覺性を以て充されてゐる。からの茶碗や皿を前に於て所謂禮法のまゝご練習をするのことは全く異つてゐる。生活訓練として、斯くも生活性を失はないものは他にないといつてもよい程である。

それに、食事そのもの、衛生的意義に於て、その點から

よき習慣の必要なこどもいふまでもない。手を洗ふこどもよく噛むこども、茶をいっしょに口に入れぬこども等、その他

大切のこどもは澤山ある。食後のうがひ。歯ブラシを使ふこども等は、多少、特別にさせるこどもになるが、それも、口中の快感を以て習慣化されるもので、決してむづかしいこどもではない。衛生々々々理窟からはいる三面倒に思ふかも知れないから、それを餘りいはずに、たゞ實行させ、實行によつて口中の清潔快感を實驗させ、それが之れを習慣にまで進めてゆくやうにしたい。但し、われ々こどもにして辨當のたべ方の衛生に就き研究して置くべき事は多いであらう。

一體、幼稚園での訓練は、家庭にもよく通知して置いて、習慣への協同工作を進めなければ効が少いが、殊に、此の食後のうがひ、歯ブラシといふやうのこどもは、是非家庭でもいつしよにして貰ひたい。しかしまた考へてみるに、斯ういふこどもは、幼稚園のやうな集合行動でこそ比較的出来易いこどもで、家庭では却つてむづかしく、實行されてゐないこどもも多からうから、子ぎもには家庭でのこどもを餘り厳しく聞かない方がいゝかも知れない。そうしないこども却つ

てう、そをいはずたりするこどもになる。注意すべきでもあらう。

第四週

「水栓開閉の始末」は、先づ第一に、水道の場合、子ぎもに、手を洗ふ前後の習慣である。多くの場合水栓のあけっぱなしが行はれる。それを一々氣にしたらうるさいこどものやうだが、手を洗つたら手を拭くやうに、流れる水を止めるのも習慣である。一々考へて、水道のメーターを考へたり、水道の公德を思つたりしてするのではない。そうするこおつくうである。それは頭のこどもで、こゝにつけたいのは手の習慣である。次に、手を洗ふ時ばかりではない。季節も大分ばか／＼して來てのぎがかわく。自分で水栓をまわして水を吞むこども多くならう。その水吞栓はみんなのがいゝか、それは設備上大切のこどもで、呑み口の清潔からいつて、所謂ウォータードリンクを用ふるのが一番いゝが、それは家庭には多分あるまい。そこで、手洗ひの水道栓の場合よりもよく習慣づける必要がある。

あゝ、斯う書いて来るだけでも、訓練々々、また訓練。する方でも気が疲れるし、される方では尙ほ更うんざりのこゝに聞へる。しかし、訓練よりも大事なこゝは、幼児の生活の活きくゝ、こゝ行はれてゆくこゝである。訓練、殊に大人の小やかましい訓練癖で、子ぎもの生活の勢をそい

誘導保育案

小石川區から三人、世田谷區から一人、本郷區から二人云ふ工合に、丸で知らない同志が、お馴染の無い幼稚園に、初めて見る先生の組になると言つた様の、特殊な制度のこゝの幼稚園では、子供ミ先生、子供ミ幼稚園、更には子供相互が親しみ馴れ合ふまでには、かなりの日数がかかる。誘導保育案を実施するには、個人指導、分團指導と言つた分子が多分にあるので、ポツンミ立ちん坊をしてる人が所所にあつたり、自己統制の無い時代の馴れ合ひの常として、直ぐに引つ掻き合ひが起つて来るミ云ふ状態だつたり、又切紙、自由畫等の簡単な保育項目をさせて置くにしても、そ

で仕舞つてはならない。「いつミなく、いつのまにか、それだて、いつも、「たえず」、これが訓練の秘訣であらう。況んや、口やかましくするばかりが先生の能ではない。その極意には、皆さんが充分訓練されていらつしやるでせう。

れが各々自分で出し入れが出来ない様な状態では、なかなかこの案を実施出来るミ云ふミころまでは行かない。

それが暫くの間でも砂場、積木等にて穩かに遊ぶ様になり、又訓れ易い女児等手を取り合つて遊べる様になり、又自由畫等をするために、大人の手傳無しに帳面やクレヨン出し入れが出来る様になるまでには、少くも二ヶ月位はかゝるミ思ふ。こんな事情が、「系統的保育案の實際」の年少組第一學期初めに、誘導保育案の立案せられない理由なのである。

兎も角も、入園第一學期は、やがて来る構成への準備をし